この村に生まれて、住んで良かったと思える
むらづくりのために

協働のむらづくり
ハンドブック

Collaboration for the future of Asahi vill.

長野県
信州 朝日村

はじめに

人口減少や高齢化など社会情勢が変化していく中、朝日村が魅力ある村として持続していくためには、行政と皆さんがお互いに手を取り合いながら、「協働」して地域の課題に取り組んでいくことが重要になってきます。

この「協働のむらづくりハンドブック」を、一人ひとりが協働について理解を深める一助として活用いただければ幸いです。

目次

1　協働のむらづくりとは？・・・・・・・・・・・・・p.2

2　協働のむらづくりが目指すもの・・・・・・p.3

3　協働の範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.4

4　協働のパートナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.5

5　協働の心得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.6

6　補完性の原理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.7

7　協働を進めるために・・・・・・・・・・・・・・・・p.8

8　協働のむらづくりの例・・・・・・・・・・・・・・・p.9

1　協働のむらづくりとは？

協働ってなに？

社会が著しく変化していく現在、村民と団体、行政などが対等の立場でお互いの特性をいかし、足りないところを補いながら、協力して地域の課題を解決することが必要です。

「どうすれば朝日村が暮らしやすい村になるのか」とひとりで考えていても、なかなか地域の課題を解決していくことは難しいものですが、様々な人や団体が行政と一緒に考え、力を合わせて活動していくことで、もっといろいろなことを良くしていくことができるようになります。

このように、一つのことに対し、みんなで考え、話し合い、協力しながら活動していくことが「協働」です。

どうして協働が必要なの？

人口が減少し、高齢化が進む中、村民のニーズや暮らしの困りごとは増加しています。

一方で、税収の減少などにより、これまで行政が提供してきた「公共サービス」のあり方を見直していかなければならない状況です。

また、核家族化が進み、高齢者世帯が増え、地域の支え合いの関係も弱くなってきています。

こうした中で、様々な人や団体が行政と一緒に“力と知恵”を合わせることで、村民のニーズに沿った「公共サービス」が効果的に行えるようになります。

2　協働のむらづくりが目指すもの

朝日村を将来に残すためには、持続可能で魅力的な村にしていくことが必要です。
村民をはじめとする「民」が身近な地域の問題を自分の問題として捉え直し、積極的に協力することができれば、魅力ある暮らしやすい地域となります。

この村に生まれて（住んで）
良かった！と思える

持続可能で魅力的な村

・住み続けられる　・住みたい、住み続けたい村

協働することで得られるもの

暮らしやすい村

- 生活上の課題に対し、お互いに知恵を出し合い協力して解決できる
- 学びや楽しみを実感できる場や行事を協力してつくることができる
- 安心して暮らせる生活の基盤を民間と行政が協力してつくっている

達成感

- 自らの「強み」や「できること」を活かし、むらづくりへの貢献や姿勢を認められる
- やりがいを感じて、さらに意欲的に取組むことができる

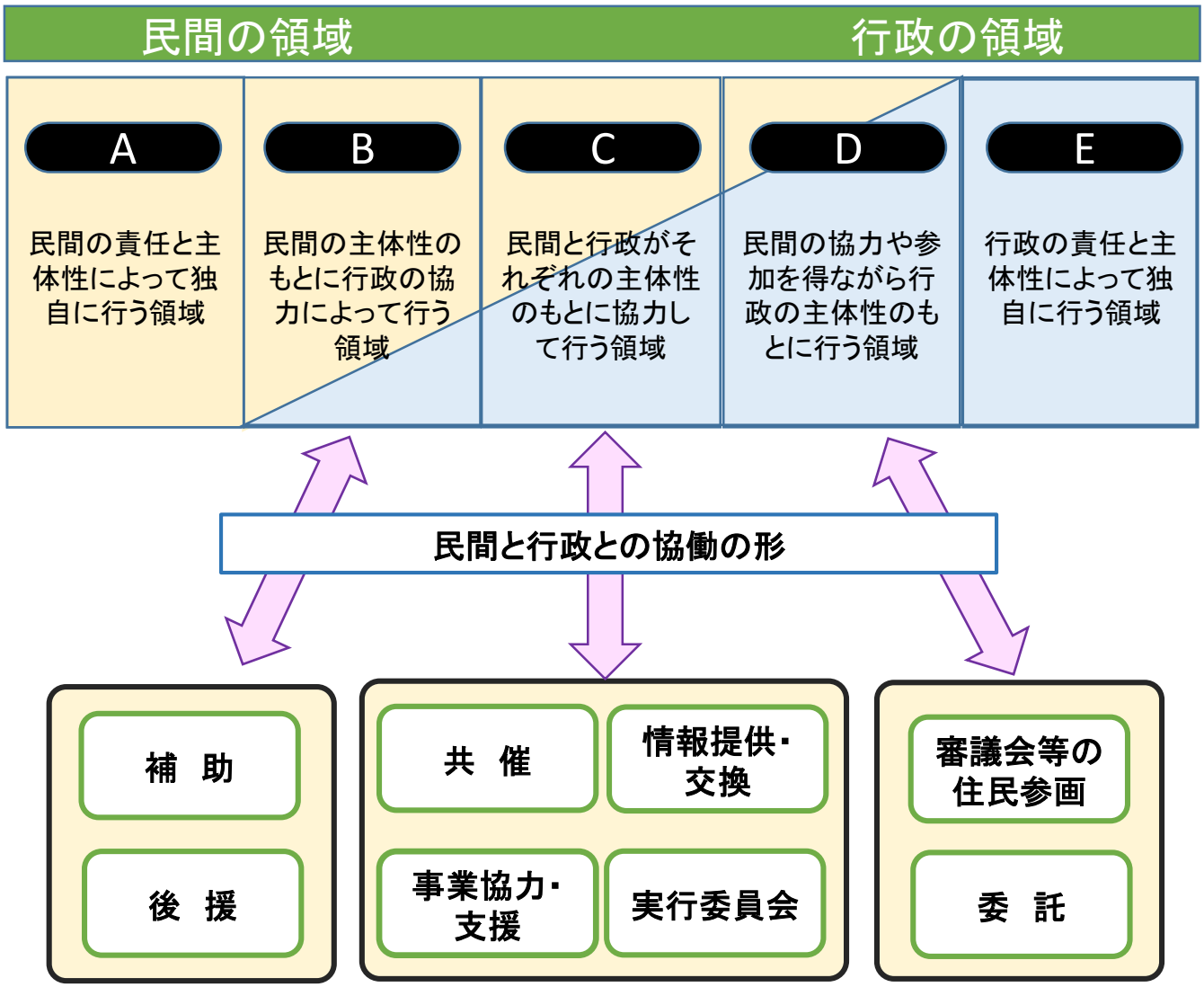
つながり・思いやりあるコミュニティ

- お互いの得意なこと、困っていることを理解し、困ったときには互いに手を差し伸べられる関係ができる
- 何か新しいことに取組むときに相談できる人がいる

3　協働の範囲

協働には、行政と民間のうち、どちらが主体者・支援者になるかによって、様々な活動のパターンがあります。
長年、協働で取組んでいると、主体者と支援者が不明確になることもあります。
実際に取組む際に、その活動がどの領域にあてはまるかを確認して、適正な役割分担や責任範囲を決めていきます。

協働の領域図



4　協働のパートナー

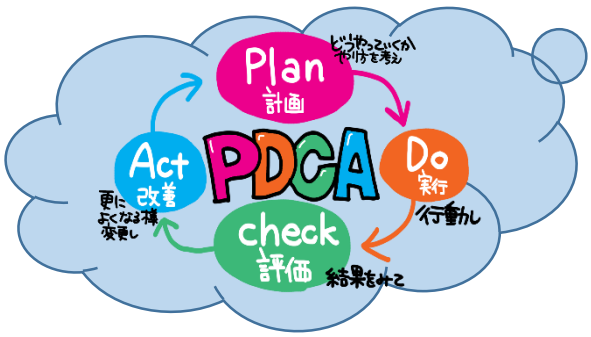
協働には、パートナー（相手）が必要です。地域の課題を解決したり、価値を創り出すには、それぞれが持つ「強み」や「弱み」をお互いに理解し合って取組むことが求められます。以下は、パートナーそれぞれの特徴を示しています。

パートナー	強み	弱み
個人（ボランティア）	• 自分の意志や想いで動く	• 継続性が保証できない
地区・区などの地域組織	• 地域を巻き込んだ活動ができる	• 代表者の考え方に左右される • 高齢化、未加入者増加により、余裕がない
ボランティア団体	• 個人（ボランティア）よりも継続性・計画性がある • 地域に捉われず、活動を展開できる	• 財政基盤が弱いところが多い • 法人ではないため、責任や負担がリーダーに集中してしまう
NPO法人などの公益団体	• 専門性がある • きめ細かな対応ができる • 使命感を持って継続的に活動している	• 財政基盤が弱いところが多い • 目標の達成水準が高く、妥協できないため他の主体と連携できないこともある
企業などの営利団体	• 社会的信頼と責任能力が高い • 地域貢献として公益事業を行う場合がある	• 営利を追求するため、非営利事業には参加しないことが多い
行政	• 予算、施設、人材、信用などの資源・資本がある	• 決定に時間がかかる • 長期継続が困難 • 公平性・平等性が優先される

5　協働の心得

協働を進めていくうえでは、パートナー間で守るべきルールがあります。
こうしたルールを守りながら、協働することで、信頼関係を築くことや効果的な活動を生み出すことができます。

心得❶	各種団体の 特性・強みの 相互理解と尊重	協働に関わる団体の間には様々な「違い」があります。 その「違い」を対立点とするのではなく、各団体が、互いの理念・考え方、強み・弱みを理解し、尊重する心構えが必要になります。
心得❷	目的・目標の共有	目的の共有なくして、協働はありえません。 各団体が課題を共有した上で、協働の取組みの目的や成果を協議し、確認します。
心得❸	情報の共有	同じ活動に取組むにあたって、パートナーと情報を共有することは大前提になります。 情報を共有しないと様々なズレが生じ、活動が効率的に進みません。
心得❹	過程の共有	企画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Act）の各段階において各団体が協議する機会を設け、全過程を共有して協働を進めることを心がけます。
心得❺	評価の実施と 公開、改善	目的・目標の達成状況、協働の効果や協働の手順の妥当性について評価し、必要な改善を行いながら、よりよい協働につなげます。



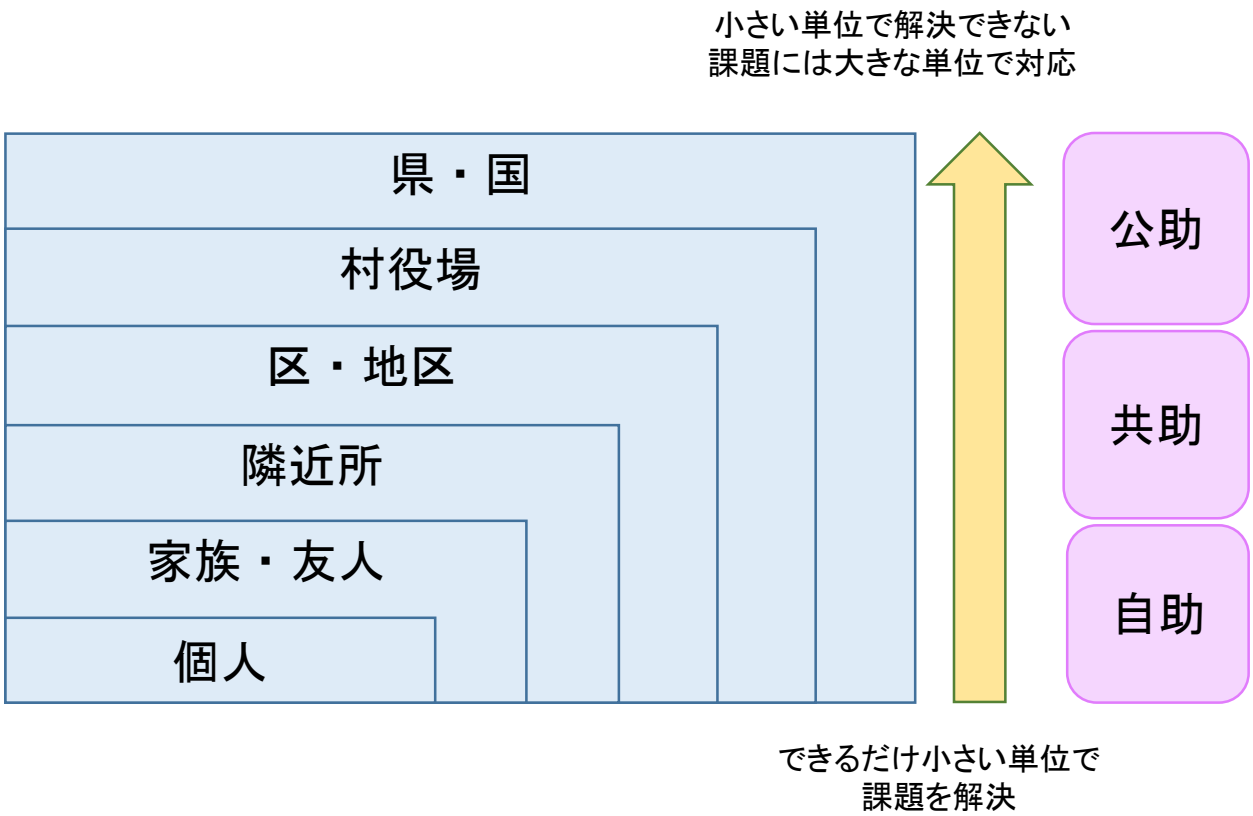
6　補完性の原理

補完性の原理とは、課題や決定はできるだけ小さい単位で解決し、解決できない課題のみをより大きな単位の組織が対応するという考え方です。

朝日村にあてはめると、個人で解決できることは個人で、個人で解決できないことは家族や友人との間で、そこで対応できないことは隣近所、区・地区、村役場、県・国・・・という具合に、課題の性格に応じて最も適切な単位の組織が対応するということです。

この原理は、自助・共助・公助の3つの要素がいずれかに偏りすぎないように、地域の自治のあり方を整えていくことが必要です。

個人化・高齢化・核家族化などが進み、自助・共助が弱まりつつありますが、今後は公助も財源不足により弱まっていくことが予想されます。このような中で、村の役割分担や関係性を見直していくことが求められています。



7　協働を進めるために

協働のむらづくりを進めるため、村では以下の事業の実施を検討していきます。

団体間の交流事業

村内で活動する様々な分野の各種団体が集い、互いの活動を知り、交流することで、新たな「協働」のきっかけをつくるための意見交換会の開催

【効果】お互いの活動を知ることで、連携が活発化することが期待される

提案型助成金

各種団体や地区などが、むらづくりのために取組みたい内容を提案し、審査を通れば、その活動を村が助成する仕組

【効果】意欲のある団体が活動予算を確保することで、村ができない細やかな活動や専門的な活動が活発化することが期待される

地区・区の活動を支援する人員の配置

高齢化・人口減少により、地域の活動を維持できなくなっていく地域へ集落支援員を配置し、地域の巡回や課題の点検・整理等を行う。

【効果】地域の活動を支援するスタッフが入ることで、地域内の話し合いや活動が活発化することが期待される

地区で行う事業への経費支援

地域で行う小規模な道路補修（穴埋め等）や鳥獣柵管理などに対する村からの物品・経費の補助の仕組

【効果】村がすべて実施するのではなく、地区の村民が協力して事業を行い、行政は資金・物品の補助を行うことで、地域住民のむらづくりの意識の向上や、村の予算削減が期待される

8　協働のむらづくりの例

朝日村では、これまで様々な協働が進められてきました。

（1） 村民による道路の除雪

朝日村で大雪が降った際、主要道路は村が重機で除雪をします。しかし、重機が通ることのできない狭い道などは、各地区で除雪機を使ったり、地域住民で協力しながら除雪しています。

各地区のPTA保護者と学校も、通学路の安全確保のため連携して除雪しています。

村が、各地区へお願いしたり、PTAの役員と学校が連携し、一斉メールや連絡網で保護者に連絡をするなど、除雪できる体制が整えられています。

（2） 各地区の草刈りボランティアの活動

村の公園や道路の植え込みなどの草刈り・草取りをすべて行政で行うと、非常に多くの経費がかかります。

村内35地区では、草刈りボランティアにより、行政が所有する敷地の道路の植え込みの草取りや公園等の草刈りを行っています。

さらに、草刈りボランティアは、各地区で所有している敷地においても草刈りなどの活動を行い、維持・管理をしています。
このように自分たちの住む地域の美化活動を行うことで、地域への愛着を高め、住みやすい地域づくりにつながっています。

（3） 県シニア大学あさひ会による朝日美術館の清掃

県シニア大学あさひ会から「会の活動として美術館敷地内の清掃をやらせてほしい」との声掛けがあったことで活動が始まりました。

県シニア大学あさひ会が年に2回行っている美術館敷地内の草刈りや落ち葉拾いのおかげで、美術館の景観を保つことができています。

この事例以外にも、村内では施設の草刈りや整備、イベント協力など、利用者が積極的に行っている例が多数あります。

- スポーツ少年団、テニスクラブ等によるグラウンドやテニスコート周辺の草刈り・側溝清掃等
- スケートリンクの会が小学生の保護者と協力しリンクを整備
- スキークラブによるゲレンデ整備、ジュニアの指導、パトロール隊員の育成
- クラフト体験館友の会による指導員の補助及びイベント協力

（4） 森のこびと（NPO法人レスパイトケアはちもり）による お弁当配達と高齢者見守り活動

「森のこびと」は、平成30年から村役場などでお昼・夕方のお弁当配達をしています。もともと食堂を運営していましたが客足が伸び悩んでいたため、弁当の配達を始めました。

村民に対しては、主に独居高齢者へ配達していましたが、その活動を知った朝日村社会福祉協議会から、お弁当配達と同時に見守り活動も行ってもらえないかと依頼され、令和2年3月から、社協と連携して見守り活動もあわせて行っています。

森のこびとが、お弁当配達と同時に高齢者の見守り活動を行うことで、社協だけでは見切れない部分のカバーや見守りネットワークの構築につながっています。

おわりに

　現代だけでなく、将来の子ども・孫などの世代になっても「幸せ」や「生活の安定・充足」を感じることができる村をつくっていくことは、今を生きる私たちの大切な役割です。

みなさんも、できることから一歩ずつ進みましょう。

令和３年３月

発行/朝日村企画財政課
〒390-1188　朝日村大字古見1555番地1
TEL：0263-99-2001
FAX：0263-99-2745